

校区の戦争遺跡 学ぶ

合志楓の森小6年生 映像視聴や衣服試着

合志楓の森小(合志市栄)の6年生約120人が22日、長崎への修学旅行を前に、終戦直後の映像や当時の衣服などの史料を通して、同校区に残る戦争遺跡について学んだ。

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワークの高谷和生代表(67)が、同校周辺が陸軍黒石原飛行場跡だった

ことを説明。飛行場跡には、天皇・皇后の写真や教育勅語を安置した「奉安殿」が現存しており、高谷さんは「全国的にも貴重な施設で地域の宝。ぜひ地元の遺跡も回ってみてほしい」と呼び掛けた。

同校と隣接する国立ハンセン病療養所・菊池恵楓園内の生活風景など、同ネットワークが昨年公開した米



高谷和生さん(左)の説明を受け、防空頭巾や航空服などを手に取る児童ら＝合志市

(深川杏樹)